

館報

おみ

11月号
No.680

2023.11.25 (令和5年) 編集と発行 / 長野県東筑摩郡麻績村公民館
TEL 0263-67-2240



▲芸術の秋に彩りを～文化祭芸能発表会～ (11月4日撮影) 関連記事は2・3面

芸術・文化に触れて 令和五年度 麻績村文化祭

令和五年度麻績村文化祭が十一月三、四日の両日にわたり、地域交流センターで開催されました。

今年度は、四年ぶりに芸能発表会を実施することができ、十二組の出演者が日頃の練習の成果を発表しました。多くの観客が久しぶりの発表に熱心に聞き入っていました。また、多くの方から作品を出展していただき、文化と教養に触れることができました。期間中は天候にも恵まれ、二日間で五〇〇名を超える皆さんにご来場いただきました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、クラブ活動等もようやく日常の活動が戻ってきました。来年こそは、芸能発表会だけでなく、その他の関連大会等ができることを願います。



紙面では伝えきれないほど多くの作品を展示いただきました。
文化祭の運営に携わっていただいた関係者の皆さん、当日ご来場いただいた皆さん、本当にありがとうございました。
公民館職員一同

▲今年も展示作品は力作揃いの見ごたえのあるものとなりました

芸能発表会



民謡民舞善の会・筑北尺八同好会



カウルリコ寺澤フラスタジオ



麻績村消防団喇叭(らっぱ)班



日舞 利久会



OMI ZUMBA (ズンバ)



愈(いよ)の会



トクとズミ



長野県松本文化会館付属管楽アンサンブル



アルプホルンを吹く会



歌好きの会



麻績村童謡を歌う会



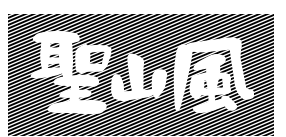
ピアノを楽しむ会 ～ちまtwins～

検討した先に、対策は見えてくるのだろうか？

遊んだ経験がある人たちもいるだろう。変わったのは何か？人の暮らしは大きく変わった。便利になったことで荒れてしまった里山は、人の領域ではなくなつたのか？夏の異常な暑さは山の環境も狂わせているのか？考えられる要素を

シカやイノシシによる農作物への被害や車に衝突されたなどは普通に聞く。クマの痕跡情報も毎年ある。ただその数は確実に増えている気がする。「昔はここまではなかった」と野山で

クマの出没被害が過去最悪だという。溪流釣りやキノコ採りを躊躇してしまふという声も聞く。畑で襲われたという話を聞けば、畑へ行くこともためらってしまふ。十月に開催された麻績学級「ツキノワグマを知ろう」も多くの参加者があり、関心の高さがうかがわれた。



ひだまり広場 子育て講座 開催

十月三十日、ひだまり広場を利用しての保護者に向けたペアレントトレーニングの一貫である子育て講座を開催しました。

『子育てを楽しもう』子どもの行動の理解と対応をテーマに、小林ひろみ先生を講師に迎えて学びました。

「最近のうれしかったこと、楽しかったことは？」の問いかけに考え込んでしまう様子も見受けられました。大変なことばかりに目がいってしまっているので、あえて楽しいことに焦点を当て、子育てをプラス思考で捉えま



▲子育てに深呼吸を

しようとアドバイスがありました。

参加された方々からは、「たくさんのヒントをもらいました」「自分のリフレッショも必要だ」「いつも笑顔でいたい」など多くの感想をいただきました。

麻績保育園 やきいも誕生会

十一月十四日に、やきいも誕生会を行いました。今年の春に年長さんを中心に苗植えし、先月末に収穫したサツマイモを焼き芋にして楽しみました。

会の当日は天候にも恵まれ、テラスにて熱々の焼き芋の味を堪能しました。



▲ホクホク焼き芋おいしいね

麻績小学校 一体験

十一月十三日に来年度入学を迎える麻績保育園ひまわり組の園児は、麻績小学校にて一体験をしました。緊張した面持ちで昇降口から登校し、一年生の教室へ向かいました。少し大きな机とイスに座ると来年度の入学に期待を膨らませました。

朝の会を済ませた後、校内見学や小学生との交流を行いました。五年生とはタブレットのお絵かきソフトを使って、絵を描いたり塗り絵をしたりしました。また、一年生は生活科の授業で学習したお店屋さんで交



▲小学校入学楽しみだな

流しました。ボーリングや射的など楽しいお店屋さんを楽しみました。

小学生のお兄さんお姉さんに教えてもらいながら、緊張とワクワクの小学校体験を経て、年長さんは自分が大きくなったという実感が倍増した一日となりました。

第六回 ふれすぽ 『スロージョギング & ウォーク』

十一月十九日にふれすぽと、おみっこ元気くらぶの共同企画で『スロージョギング&ウォーク』を開催しました。当日は小学生の部と一般の部に分かれ、小学生の部には十一名、一般の部には十二名の参加がありました。講師は、NPO法人松本スポーツサービスから二名を招いて行いました。

まず、全員でストレッチをしてから、ミニゲームなどで体を温めました。走ることは片足ジャンプの連続で、『姿勢、ジャンプ、腕振り』が大切とのこと、良い姿勢で、自分の体の近



▲姿勢を気にして腕を振ろう

くでジャンプすることを意識すると良いジャンプができると教えていただきました。その後、小学生は速く走るためのトレーニングを行いました。後半になるにつれ、子どもたちはフォームや動きが変わり、「練習前より少し速く走れるようになった」と喜んでいました。

また、一般コースでは、姿勢や歩き方の癖を知ること、筋肉のどの部分が使えていないかを確認し、弱い部分の対処法を教えてくださいました。

日常の歩くという動作でも意識することで普段使わない筋肉を鍛えることができることを学びました。

麻績小学校

「おみつこミュージックフェスティバルを終えて」

十月十八日は保小中合同音楽会「おみつこミュージックフェスティバル」が大に開催されました。筑北中学校を会場として、保育園児、小学生、中学生が一堂に会し、それぞれ個性あ

元気通信!!

～今月の小・中学校～

ふれる楽しいステージを繰り広げました。可愛らしい保育園児から小学生の低学年、高学年、そして中学生へと、子どもたちのどんだん成長している姿を見ることができ、感慨深い音楽会となりました。また、オープニング



▲皆で盛り上がりよう



▲初の試み保小中合同音楽会

やエンディングは児童生徒が考えたり、小学生の金管バンドに中学生の吹奏楽部員が加わったりと、合同音楽会ならではの楽しい企画もありました。

初めての試みでしたので修正すべき点や課題も多々あったかと思えます。今年度の反省を元に来年度はさ

筑北中学校

親子ふれあい講座のこと

らによりよい音楽会にしていきたいと思います。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

一年 花岡 楓

私は、親子ふれあい講座で大好き焼きを作りました。大阪出身の先生が来てくださり、本場のお好み焼きの作り方を教えていただきました。

先生は生地に山芋をいれてサクサク生地をまぜてい



▲おいしさの秘密は山芋

ました。私は兄とお母さんと一緒に作りました。家とは少し違う作り方でとまどったけれど、うまく焼けたし、おいしく作れました。教えてもらった作り方で家でも作ってみたいです。

親子ふれあい講座

二年 川久保瑛斗

十一月六日、月曜日に親子ふれあい講座がありました。私と母親は、二人でヨガに参加しました。

自分にとってヨガは初めてで、とても新鮮味がありました。とても楽しかったです。また、私は親子ふれあい講座は、親子の絆を深めるものだと感じました。親子で一緒に、色々なものに挑戦することも、日常生活の中では大切だと分かりました。みなさんも新しいものに、親子で挑戦してみましよう。

絆を深めた親子ふれあい講座

三年 佐藤 匠駿

私は親子ふれあい講座で

母と一緒にバドミントンをしました。

麻績体育館でバドミントンをご指導している先生が来て、色々な技や打ち方を教えていただきました。実践では、親とチームを組んで友達の子と戦いました。最初は勝てたのですが、途中で戦ったクラスメイトの親子にボコボコにされました。

負けてしまいました。親との絆はとても深まったと思います。私は、今回の親子ふれあい講座を全力で楽しめてよかったです。また、親との絆を深められて本当に良かったです。



▲絆深まるバドミントン

相撲と麻績の事跡

(その一)

はじめに

相撲は日本独特の国技である。神話の時代、神の行状など「神技」として発祥し、武技・奉技・競技・遊技など連綿とした伝統を保ち発展し今日に至っている。そして現代では、大相撲を中心とした観技として国民に親しまれている。

令和五年の春、旧麻績宿下町（現本町区）林家より教育委員会に嘉永三（一八四九）年の「相撲の免許證状」が届けられた。

上井堀区所蔵文書に三通の相撲に関わる古文書がある。江戸から遠く離れた麻績で奉納相撲を中心に盛況な時代があった。この史料をもとに、麻績の事跡、相撲の歴史、相撲の色々について考察する。

相撲の起源と

信濃の神社

相撲の起源は、日本最古

の歴史書「古事記」の神話にある「天手力雄命（あまのたぢからおのみこと）」と「建御名方命（たけみなかたのみこと）」だという。

天手力雄命は「天の磐戸」の力神であり、相撲に似た神技が神前で奉納され、命が最高位の勇者であったという。戸隠神社は、天の岩戸神話に由来し、奥社に天手力雄命が祭られている。昭和十六（一九四一）年に、相撲発祥にゆかりの霊地戸隠山の麓中社越水ヶ原に佐渡ヶ嶽親方を中心となり相撲錬成道場が開かれた。

相撲の司家吉田追風家（後記）では、相撲三神として天照大神・住吉大神・天手力雄命を祀っていると

いう。高天原の支配者天照大神は、出雲国の主神大國主命に国譲りを迫った。主命の子で、出雲の豪力の神でもあった建御名方命（諏訪大神御名方富命神ともいう）は帰順しなかった。高天原の使者で、猛将建御雷命（たけみかずきのみこと）との力比べによって決しようとして、出雲国伊那佐

の浜で取り組みをした。御名方命は御雷命の怪力に及ばず敗れ、出雲の国を譲り諏訪（古事記には洲羽海とある）に鎮座し、諏訪大社の大御神となったという。大社では、令和五年九月十五日、化粧まわしをつけ、相撲甚句を歌いながら踊る「相撲踊り」が奉納された。

諏訪大神建御名方命と鹿島大神建御雷命の力比べが国技相撲の始祖と伝えられ信濃の神社が起源に関わっていた。

相撲節会(せちえ)と

吉田豊後守家次(追風)

について

○節会とは

古代朝廷で節日や公事（くじ）のある日、天皇が出御して行われた宴会のことであるが、その時に種々の催しがあった。延喜（九〇一〜九三二）年中に入つて宮中の三度節として「相撲」「射礼（しやらい）（弓射）」「騎射（騎馬で行う射術）」が朝廷における重要な行事であった。

○相撲節会と相撲司（すまいのつかさ）について

相撲節会は、奈良時代の神龜五（七二八）年、聖武天皇（七二四〜七四九）が創始したという。保元元（一一五六）年七月・平治元（一一五九）年十二月の乱によって平安末の高倉天皇（一一六八〜一一八〇）の承安四（一一七四）年に廢儀となった。その後、文治（一一八五〜一一八九）年中に後鳥羽天皇によって再興されたという。

この節会において、式礼を司る重要な役が「相撲司」であった。司には、相撲の故実作法に優れた越前国（福井県の東部）吉田莊の吉田豊後守家次が任ぜられた。従五位に叙され「追風」の号を賜ったという。子孫は代々「追風」を襲名し、横綱免許権を持っていたが、昭和二十六（一九五二）年授与決定権が日本相撲協会に移ったという。

守追風」と記されている。家次の子孫と考えられる。

相撲の免許制度について

徳川八代将軍吉宗はその治世、享保元（一七一六）年・延享二（一七四五）年、江戸幕府三大改革の一つであった「享保の改革」を行い、幕府の体制立て直しを行った。その中に武芸の振興の項があり、相撲もその一つであったと考えられる。

延享元（一七四四）年吉宗は武技奨励のため、幕命を以って全国に「相撲の免許制」を布いた。麻績村には、江戸時代後期に木村庄之助が発給した「相撲取（力士）の免許證」と「四本柱土俵の免許證」の史料がある。小県郡県村（現東御市）の白鳥神社には、江戸後期相撲親方浦風林衛門直政の奉納相撲の免許狀が残されているという。

次号に続く

「寄稿」信濃史学会会員

飯森 忠幸

本の森だより

おみ 図書館

読書週間に合わせて松本山雅FCのしおり配布

第七十七回読書週間に合わせて、期間中に図書館で本を借りた方に「松本山雅FC特製しおり」をお渡ししました。



▲松本山雅は読書推進にも一役買っています

ことになりました。また、小中学校の児童生徒にも配布されました。

文化祭恒例

本のリサイクル市開催

文化祭の二日間、地域交流センター三階ロビーで、本のリサイクル市を開催しました。



▲所せましと並んだりサイクル本。雑誌や実用書が人気でした

図書館での役目を終えた書籍や雑誌、児童書、絵本、また寄贈されながらも図書館へ置くことができなかつた本が並びました。毎年楽しみにされている

方もいて、オープニングセレモニー直後からたくさんの方が来場しました。新たな読み手のもとで、図書館の本が再びお役に立つことを期待しています。今回は本の持ち帰り袋を利用者さんにご持参いただきました。ご協力、ありがとうございました。

紙芝居上演会開催

筑北村の村西京子さんを講師に迎えて紙芝居の上演会が開かれ、麻績保育園からはひまわり組のみなさん、麻績小学校からは一年生が参加しました。



▲お話の間に手遊びも。「このかたちはなんだろうな？」

拍子木に合わせた手拍子で紙芝居のはじまりはじまり。舞台上に目がくぎ付けのこどもたち、想像力がい

っそう豊かになったのではないでしょうか。趣の異なるお話が四つと、盛りだくさんのお話をたっぷり楽しめました。村西さんのすてきな語りの世界にひきこまれたひとときでした。

麻績小学校図書館だより

紙芝居の会の方によるお話会が行われました。

この紙芝居は、若林茂富さん（市野川）が子どもの頃におばあさんから聞いたお話に、野田沢の画家・岡野和さんが絵コンテを描き、それをもとに会員が一枚一枚絵を仕上げたという、ここにしかない作品です。

今回は『逃げ出した旅人』を上演していただきました。



▲半殺し？ 旅人の運命はいかに！

みんなて そだてる 11月のおみ図書館

10月貸し出し数	
貸出冊数一般	996冊
貸出冊数児童	1244冊
来館者数一般	450人
来館者数児童	1042人

冬のお話会のご案内
十二月二十三日(土) 十時半から「冬のお話会」心をつなぐ音楽と遊び歌」を開催します。

講師の下形和美さんはたて琴の一種ライアーの指導者で、県内各地で活躍されています。遊び歌の実践、癒しの楽器体験、ライアー演奏等、盛りだくさんの内容になっています。予約は不要です。ご参加お待ちしております。

子どもたちは、知っている地名が出てきて興味津々、昔の生活を想像しながら集中して聴いていました。

もう一つの『逃げ出した旅人』では、「半殺しにされてしまう?…」と一瞬びっくりしたものの、最後においしいおはぎのことだと分かること、安堵の表情を浮かべていました。

このようにして、おおぜいの皆さんのご協力により、語り継がれていることは、とてもすてきなことです。



『夢の教室』
く日本サッカー協会
によるプロジェクト』

十月二十五日麻績小学校にバレーボール元日本代表選手の落合真理さんが訪れ、五年生二十名に対して夢先生の授業を行いました。
まず、体育館でボールやフープを使ったゲームで体を動かすことからスタート。ゲームごとに目標を達成するための作戦タイムをとり、意見を出し合ってからチャレンジをくり返しながら目標を達成させていきました。「友だちの意見に耳を傾け、協力して乗り越えられる仲間たち。これからも仲間をずっと大切にしたい」と伝えていました。



▲チャレンジ・チェンジ・チャンス

小学校三年生からバレーボールを始めた落合さんは、中高とバレーボール強豪校で活躍し、日立製作所に入団。しかし、一年で廃部となり、久光製薬に移籍。膝の大きさがや病気で手術を受けるなどの困難が続いたが、仲間の励ましや家族に支えられながら過酷なりハビリを乗り越え、「全日本選手になる」という小学生からの夢をかなえました。

バレーボールを始めてからの経緯を『夢曲線』で示しながら、「困難にぶつかって苦しい時にこそ気づくことがある。小さな目標を立てクリアしていくことで自信につながる。チャレンジ

ジしたことで何かが変わるの、失敗しても諦めずに何度でも挑戦を繰り返してチャンスにつなげてほしい」と思いを語ってくれました。

児童は夢シートに夢を書き、写真家・料理人・サッカー選手などのそれぞれの夢と、夢の実現に向けてどんなことをしたらいいかを考えて発表しました。

最後に【魔法の言葉】として、『チャレンジ・チェンジ・チャンス』をみんなで唱えました。

市野川分館で
転倒予防講座

十一月一日市野川公民館で、地区の保健補導員さんの企画による運動教室が開かれ、十五人が参加しました。講師は玉井医院リハビリ

テーションひろばの稲葉一さんです。始めに「転倒とは?」「転倒しやすい場所はどこ?」などを学んだ後、簡単なストレッチの実践に入ると「ああ、これは効く」「プルプルしてきた」と参加者から声が漏れます。



▲毎日の運動で転倒予防

稲葉先生によれば「地味な運動ですが続けられれば筋肉が付き転倒防止につながります」とのことでした。企画した保健補導員の久保田恵美さんは「大勢の人が集まってくれてよかった、今後継続して開催したい」と言っていました。

玉井医院リハビリテーションひろばでは、今回のような出張講座を「同一主宰者によるグループ年四回まで無料」で行っています。グループは三人以上集まれば良いそうです。
お問い合わせ・お申し込みは、麻績村役場住民課（☎六七一三〇〇一）までご連絡お願いします。

第七回麻績学級
く藤森敬一ライブく

十一月十六日第七回麻績学級を行い、岡谷市在住の藤森敬一さんのライブを行いました。当日は五十名近い皆さんが藤森さんの優しい歌声に聞き入っていました。



とわに幸あれ

市川 透 和合
吉池 彩季 筑北村より
ご冥福を祈る

山本 君子 85歳 市野川
山本 元子 89歳 市野川
市川ふほこ 85歳 和合
宮川 登よ 90歳 宮本
土橋 俣子 93歳 上町